

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における淀川中学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年4月から7月末までの期間に、2年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- ・淀川中学校では、2年生 102名

3 調査内容

- ・生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
中学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「生徒質問紙調査」という。）を実施する。

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

淀川	中学校	生徒数	102
----	-----	-----	-----

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	29.78	25.45	41.22	50.48		81.56	8.30	198.95	20.18	39.26
大阪市	29.00	27.45	41.55	51.39	409.58	84.05	8.10	189.74	20.39	41.00
全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
女子	26.79	23.65	42.45	47.06		53.25	8.80	165.40	14.54	50.89
大阪市	24.11	23.81	44.70	46.89	303.77	57.92	8.95	165.67	13.06	49.27
全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96	49.97

結果の概要

男子は、握力と立ち幅跳びは全国、大阪市平均を上回っているが、その他は全国、大阪市平均を若干ではあるが下回っている。

女子は、握力、反復横跳び、ハンドボール投げは全国、大阪市平均を上回り、50m走は同じであったが、その他は全国、大阪市平均を下回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

昨年度と比較し、体力テストの結果では男子が全体的に低下し、女子は上昇している。この結果については、対象生徒が違っているので、一概に比較することが容易でないが、体育授業内容の点検や改善の指標とすることが必要である。

また、中学校過程では生徒の体力づくりにおいて、部活動の役割がとても大きい。今後教員の働き方改革なども進められることが予想され、部活動の在り方の見直しが迫られることが考えられる。